

今後の人材育成の考え方について

1. はじめに

「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」（以下、「英知事業」という。）において、平成 26 年度より人材育成事業が開始され、本年度は 5 年目となっている。このような背景から、平成 30 年 5 月 17 日に東京大学において「次世代廃炉人材育成セミナー」が開催され、これまでの人材育成事業の成果や今後の在り方が議論された。また、平成 30 年 6 月 18 日に原子力損害賠償・廃炉等支援機構（以下、「NDF」という。）が実施した、「第 7 回 廃炉研究開発連携会議」においても「次世代廃炉人材育成セミナー」が報告され、議論され、今後も人材育成プログラムの継続は極めて重要であることが示されている。

2. 今後の廃炉人材育成の考え方

「第 7 回 廃炉研究開発連携会議」等の議論を踏まえ、今後の廃炉人材育成の考え方を、プラットフォームとしても議論を行い提言していくことが重要である。

① 福島県に知の拠点を作るために

- ・概要にも示されるように、廃炉に関する知の拠点を形成する事が極めて重要であると
考えられる。例えば以下のような取り組みが考えられないか？
 - ・福島県（富岡町を想定）に、サテライトキャンパスやサテライトラボラトリを
CLADS 等に設置し、CLADS や TEPCO と協同して研究や人材育成にあたる
 - ・廃炉研究及び廃炉人材育成に関連する成果を CLADS に集約する。研究会資料（可
能な限り公開）や論文などのデータベース化
- ・その他

② 分野横断性（分野を超えた知識、技術をまなび総動員）を達成するために

- ・分野横断性を確保するために、共同事業体（コンソーシアム）形式での人材育成を進
める事は有効か？
- ・異分野を加えることでダイバーシティなコンソーシアムが形成され、多彩な人材育成
に寄与すると考えられないか？。
- ・具体的な異分野の例として、コンソーシアム形成の中に、高度情報科学（AI やビッ
クデータ解析等）、社会科学等の分野を加えることが、今後の廃炉人材育成に有効で
はないか？。他に含めるべき分野はあるか？
- ・その他

- ③ 国際性（世界の共通した問題，国内外の英知の結集）を達成するために
- ・海外研修、国際会議等の実施が国際性高い人材育成に寄与するが、どのような仕掛けがあると実施しやすいか？
 - ・海外からの教員やポストクの受け入れがあると国際性高い人材育成につながるか
 - ・NEST との協力関係、もしくはプログラムに組み込んで実施することは国際性高い人材育成につながるか
 - ・その他
- ④ 社会受容性（技術を作るだけでなく，使われることも考える）を達成するために
- ・現場ニーズを把握するため、また、現場課題を肌身で感じるために企業のインターンシップは有効か？
 - ・コンソーシアムにおいては、インターンシップは必須か？
 - ・実用化を見据えた研究を実施するために、定期的な現場視察は有効か？
 - ・社会と技術との融合を目指すことや地元目線で研究を進めるために福島県に拠点を設けることは有効か？
 - ・その他
- ⑤ 現場のリアルな問題を解決できる人材を育成するために
- ・現場適用を深く掘り下げて現実的課題解決の研究を募集内容に組み込むことは有効か？
 - ・問題解決やプロジェクトマネジメントを体験できるような取り組みを募集内容に組み込むことは有効か？
 - ・廃炉ロボコン等は、プロジェクト管理できる人材を輩出するために有効か？
 - ・その他
- ⑥ その他
- ・学生がモチベーションをもてる魅力ある分野とするには、どの様な取り組みが必要か？
 - ・異なる学会や高校生など1F 廃炉にも目を向けるためには、どの様な取り組みが必要か？
 - ・異分野からの参画を得るには、どの様な情報発信が有効か？

以上